

# 令和6年度社会福祉法人ひまわり会事業報告

『多くの皆さんの期待に応え、持続性あるひまわり会に』

ひまわり会の理念をもとに、持続性のあるひまわり会を目指し、さらに、利用者の期待に応える支援を目指して、職員一丸となって運営に取り組んでまいりました。

そのためには、職員が働き甲斐、やりがいのある職場環境が必要となり、改善を目指して取り組んできました。

## I 法人の令和6年度の運営総括

### 1 利用者のやりがいと生きがいのある法人になるために

- (1) 新たに、4月にひまわり園に2名の利用者を迎え、年度末にすてっぷに1名の利用者を迎え、毎日のように利用していただいています。
- (2) 一般就労のため退所された方が1名、残念ながら、身体的な理由で退所された方、ご逝去された方もおり、全体的な利用者の人数は減少しました。
- (3) 利用者へのより良い支援のために、研修を重ね、ケース検討会で個々の皆さんの事例をもとに、支援のありかたを検討し、寄り添った支援に努めました。
- (4) 可能な生活支援、外出支援、事業所ごとの旅行、行事に取り組みました。
- (5) 地域のお祭りなども復活し、販売機会を増やすとともに、平日の事業所などへの販売も積極的にいき、工賃の確保、向上に努め、ランクがアップした事業所もありました。

### 2 保護者の皆さんや地域に貢献できる法人になるために

- (1) 保護者の皆さんへの運営の説明と報告のために、総会での説明を行うほか、施設ごとの通信等で伝え、理解を図る取り組みを進めました。
- (2) 保護者の皆さんへのアンケートで法人への評価をいただきながら運営に努めました。地域のニーズをつかむところは、不十分な面があったので、今後の課題になります。
- (3) 地域の皆さん、後援会など関係の皆様には、後援会報、ホームページ、フェイスブック、SNS等を通じて情報を発信しましたが、ホームページやフェイスブックの更新は、もっと積極的に行う必要があります。

### 3 財務を安定させ、持続可能な法人になるために

- (1) 中長期計画を職員総意のもと作成し、改善のための方策や新たな取り組みのスタートに立つことができました。
- (2) 新たな利用者、求職者に選ばれる法人になるために、支援学校に受け入れ可能な情報を伝え、実習や体験希望者を受け入れ、利用につなげました。また、職員は、待遇改善をしながら、新たに採用することができました。
- (3) 重点として取り組むべきところを大切にしながら、各種保険や購入備品について、見積りを取り、入札にするなどで経費を抑える努力を進めました。

### 4 職員の働き甲斐のある法人になるために

- (1) 中長期計画の作成を通して、職員の事業や運営への参画をさらに進め、やりがい生きがいを感じられる法人になるように取り組みました。
- (2) 最低賃金の上昇に対応して、各種処遇改善加算を取得し、時間給や給与の引き上げを行い待遇の改善を進め、意欲をもって働ける環境づくりに努めました。
- (3) 法律に改正に合わせて就業規則を改正し、子の看護休暇などの拡大に努めました。

(4) それぞれの職員が、利用者支援や法人運営にかかわるためのレベルアップを目指せるように、研修委員会で年間計画を作成し、研修を行い、充実に努めました。

○新任職員研修 4月4日 採用時随時

○全体研修 6月8日 「職場内コミュニケーション向上研修」 ひまわり園

○全体研修 11月30日 感染症予防研修「手指衛生ってホントに大切なもの」上姉体会館

○全体研修 令和7年2月8日 「虐待防止・身体拘束適正化」研修会 上姉体会館

○全体研修 令和7年3月10日 「2024年度報酬改定の影響とこれからの運動課題」ひまわり園

※そのほかにも、事業所ごとに必要な研修を行っています。

## II 当面の運営上の課題

### 1 財務の健全化

(1) 法人本部の組織化し、法人全体の業務機能的にするための改革を進め、法人運営をスムーズに進めるよう取り組みました。

(2) 国の報酬改定に伴い、減収になる生活介護事業やグループホーム事業について、職員の配置基準を変え、各種加算を取得し、借入金の返済、家賃の増額などの対応を行い、収支の改善に努めました。

(3) 財務の健全化に向けて、各事業の財務を明らかにし、施設長や職員が常に財務を意識した事業運営に心がけました。

(4) 中長期経過の作成を通して、法人内の事業の見直しや、新たな事業の開拓を進めるスタートに立つことができました。

○令和6年度第1回中長期計画策定委員会 8月1日 ひまわり園

○利用者保護者へのアンケート 9月3日

○第2回策定委員会 10月25日 ひまわり園

○第3回策定委員会 令和7年1月16日 ひまわり園

○中間報告会 役員・評議員 1月24日 四季の抄街のなか店

○第4回策定委員会 2月21日 ひまわり園

○報告・承認 理事会 3月12日

評議員会 3月26日

### 2 業務継続計画に基づく運営と各種委員会等の活用を図る

(1) 非常時における事業所の運営を安定して進めるために、職員に周知し、運営に心がけましたが、地域とも連携した活動は不十分でした。

(2) 福祉サービス運営適正化推進会議や虐待防止、身体拘束適正化委員会等を定期的で開催し、安全安心な事業所づくりに努めました。

○福祉サービス適正化委員会 7月22日、令和7年1月20日 はっぴいウイング

○虐待防止・身体拘束適正化委員会 各事業所随時

### 3 利用者の外出支援や余暇活動、対外的な行事に取り組む

(1) 利用者の日帰り旅行、事業所内での楽しみ会に要望を取り入れながら行いました。

(2) 対外的な行事（にこにこふれあい運動会、アテルイの里芸術祭）に参加し、他の事業所とも交流し、利用者の楽しみを支援しました。

○お花見（各事業所）4月

○開園記念行事（各事業所）6月

○日帰り旅行 はっぴいウイング5月、ひまわり園5月・6月

- すてっぷはきょうされん東北ブロック交流会に参加し、南三陸ホテル観洋に一泊 7月
- ひまわり祭り 9月15日 ひまわり園
  - にこにこふれあい運動会 10月5日 Zアリーナ
  - アテルイの里芸術祭 11月16日 江刺総合コミュニティセンター  
ひまわり会が大会事務局として運営を担った。
  - 土曜生活支援 すてっぷ
  - 余暇活動 はっぴいウイング 随時
  - クラブ活動 ひまわり園 月1回 水曜日午前

#### 4 職員の育成と確保

- (1) 今後の法人運営のために、法人の状況を職員に周知し、運営への参画を図りました。
- (2) 年間計画に設定した職員研修日を活かすため、研修委員会の計画のもと、必要な研修、職員のレベルアップのための研修に取り組みました。
- (3) 職員個々の育成と法人運営のために資する資格取得を進めましたが、職員個々の人材育成を考えた具体的な研修計画の立案までは不十分でした。
- (4) 職員の確保のために、待遇改善や、職場環境の改善を進めました。
  - 時間給・給与の定期昇給と県最低賃金の改正に伴うアップ
  - 嘱託制度の導入と給与表の新設
  - 退職手当の改正明示
  - 育児休業及び育児短時間勤務に関する規程の改正
  - 介護休業及び介護短時間勤務に関する規程の改正 など
- (5) 公的な求人機関の他に、ホームページやSNSの活用を図り、保護者の皆さん、地域の皆さんに情報を伝え、職員の確保を図りました。
  - ハローワークでの求人
  - ホームページでの求人募集
  - 胆江日日新聞への求人募集掲載

### Ⅲ 対外的な活動

#### 1 ひまわり会後援会の活動

- (1) ひまわり会の事業運営支援のための寄附金 314件、1,246,645円  
(保護者会寄付金 20万円含む)  
令和6年度法人ひまわり会への寄附金額 113万円
- (2) 後援会報の発行7月、2月に各550部発行  
(発行費用はひまわり会法人で支出)  
後援会会員への配付のほか、上姉体、北姉体、西上野町の各町内会のみなさんにも班回覧により活動報告を行っています。
- (3) きょうされん壁掛けカレンダーの配付 100部  
(後援会員の企業及び個人会員)
- (4) ひまわり会行事への参加協力  
令和6年10月15日(日) ひまわり祭り

#### 2 きょうされんと連携した活動

- (1) きょうされんの目標である「利用者の権利拡大、生活の向上、職員の研修」に、本部や、東北ブロックの皆さんと連携して取り組みました。
- (2) きょうされん岩手支部の活動の中心となり、支部活動や利用者の権利や地位向上のための運

動に積極的に関わりました。

- 岩手支部総会 4月13日 陸前高田市コミュニティセンター
- 全国総会 5月29日 大田区産業プラザピオ 小澤、栗田
- 国会請願 5月30日 衆参議員会館 小澤、栗田
- 東北ブロック代表者会議 5回 ZOOM 中心
- 東北ブロック交流会 7月26日、27日 宮城南三陸 小澤、栗田、北田  
すてっぷ利用者・職員
- 全国大会 11月8日、9日 滋賀 栗田、すてっぷ利用者五日市悟志さん、職員
- 署名・募金活動 職員・保護者の皆さん、労働組合  
街頭署名・募金 12月8日 コープアテルイ 利用者、職員
- 東北ブロックとも育ち研修 1月17日、18日 宮城 栗田、北田
- 岩手支部研修会 2月1日 陸前高田市コミュニティセンター 小澤、栗田、北田

### 3 スペシャルオリンピックス日本・岩手 県南 brunch の事務局として運営

- (1) 県南 brunch の事務局として、岩手事務局と連携し、活動・運営に取り組みましたが、新たな事務局育成は不十分でした。
- (2) アスリートが望み、活動可能なボッチャ、フライングディスク、陸上競技、水泳、ボウリング等の活動の運営に取り組むとともに、アスリート会員、ボランティアの拡大に努めました。

※アスリート会員 23名

- 事務局会議 3回
- 県運営委員会への参加 毎月1回 Zoom 小澤
- 県理事会への参加 2月20日 盛岡 小澤
- ボッチャ・フライングディスク交流会 4月6日 はっぴいウイング 38名参加
- ボウリングコーチクリニック 8月4日 盛岡 小澤、鈴木、ファミリー3名
- ボウリング交流会・記録会 水沢ボウリングクオリア  
5月18日 37名参加（アスリート14名、ファミリー・事務局23名）  
8月31日 ファミリー・事務局 4名  
10月13日 コーチ5名・アスリート2名  
11月10日 アスリート11名、ファミリー18名、事務局3名 計32名
- 県 brunch（盛岡・県南・気仙）交流会 6月30日 ふれあいランド岩手 36名参加
- クリスマスお楽しみ交流会 12月14日 はっぴいウイング アスリート17名  
ファミリー21名、運営委員・事務局7名 計45名
- 総会 令和7年3月8日 はっぴいウイング 19名参加
- 水泳 水沢スポーツクラブ プール 毎週水曜日 18時から19時まで 4名参加

## IV 法人内各事業所の状況

### 1 法人事務局

#### (1) 法人事務局体制の確立と評価

令和6年度より、専務理事、事務長、事務主任、事務員の体制を確立しました。今まで、本来法人事務局として成すべき業務を各事業所で担っていたことにより、各事業所の責任者が法人の方針を踏まえ、運営できるようための法人事務局としての機能が不十分でした。

法人事務局としての体制を位置づけることにより、長年課題となっていた各部門をつなぐ存在として、法人全体の事業、財務、人材、組織システムに関する包括的な組織を確立することができました。

#### (2) 財務マネジメントと次年度取り組むべきこと

法人全体の財務を統括し、予算から決算に関する編成と執行を行いました。  
健全な財務基盤を堅持し、法人全体の持続的な発展を支えることを目標としましたが、今年度は、報酬改定による障害福祉サービス費の減、新型コロナウイルス・インフルエンザ感染による利用率の減により非常に厳しい決算となりました。

その中でも、令和7年度からの3年間の中長期計画を策定することができました。安定した財政基盤を確立と明確に取り組むべきことについて、財政目標を達成できるよう努めます。

### (3) 総務

#### ① 理事会・評議員会・監査について

開催の案内、事前資料の作成・提示、会議の運営、議事録の作成等運営全般について、遅滞なく行うことができました。

#### ② 諸規程等の改廃について

職員の労務・賃金について、情勢の変化や法律の改定に準じて、諸規程を改廃しました。

#### ③ 内部牽制について

経理の正確性を確認していただく出納調査を年2回実施しました。加えて、事業所の運営について、制度やルールが適切に運営されているかを確認する業務監査を年1回実施しています。

### (4) 労務管理

法人の労働環境の整備や推進、採用、人事、給与など職員に関する労務全般について、役割を確立し、適正に対応することができました。

### (5) 広報

ホームページを活用し、事業の内容を開示しております。都度、更新に努め、地域のみなさまにひまわり会を知っていただく媒体として在り続けられるよう、情報を公開していきます。

## 2 ひまわり園

### (1) 全体の運営状況について

① 4月に新規利用者1名を受け入れ、就労継続支援B型事業21名、生活介護事業30名、計51名でスタートし、職員30名（兼務含）を配置しての運営となりました。

しかし、年度中には2名（うち1名逝去）の利用者が退所しています。

重度の障がいを抱える利用者や、高齢による身体機能の低下などの課題があるなか、すべての利用者が就労への取り組みを行い、その人の状況に応じた工賃を支給することができました。

一方、職員においては、体調を崩し長期休職の職員が2名あったため、職員配置基準値を保つことがぎりぎりの状況でしたが、職員が一致協力して対応することができました。

新型コロナウイルス、インフルエンザの流行に伴い、休む利用者もありましたが、日帰り旅行をはじめ、計画したすべての行事に取り組むことができました。

② 財務状況について、事業活動収支は、事業収支差額で1千万円のプラスを確保しましたが、施設整備支出（230万円）、拠点区分間繰入金支出（1,784万円）があり、最終的に令和6年度の当期資金収支差額は、マイナス1,086万円となりました。

職員については、研修を積極的に取り組み、個人の資質向上に努めるとともに、職員間の連携を図りながら利用者支援を行うことができました。

また、働き方改革をすすめ、休憩時間取得など労務環境の改善に取り組みました。

### (2) 利用者の支援について

① 職員の利用者担当制による支援としていますが、全職員が利用者個々の担当者という認識を持ち、個別支援計画に基づき、その利用者個々の心身の状況等に応じて適切に行うことができました。個別支援計画の内容について、利用者及び家族に対して説明する機会を設け、ご家族の意向を反映しながら計画を作成いたしました。

利用者について、その心身の状況、その置かれている環境、その利用者個々の希望等の把握（アセスメント）を行い、同意を得た上で、個別支援計画を作成し支援にあたることできています。

② ご家族との連絡ノートを活用し、日々の利用者の状況をお知らせするとともに、ケース記録に日頃の利用者の状況を記録し、常に経過を把握できるよう、サービス管理責任者、管理者（施設長）、担当職員と情報共有を行い、必要に応じてサービス提供の見直しを行いました。

(3) 授産事業について

担当科（①パン制作科、②菓子製作科、③リサイクル科、④受託加工科、⑤クリーン科）ごとに年間目標額を定めて取り組みました。

○授産事業の状況

【単位\*円】

区 分	パン 製作科	菓子 製作科	受託 加工科	リサイ クル科	クリーン 科	きょうさ れん販売 他	合 計
目標額	4,200,000	2,400,000	1,100,000	2,300,000	500,000	-	10,500,000
実績額	4,567,045	2,684,711	1,305,415	2,509,146	511,160	911,898	12,489,375
差 異	367,045	284,711	205,415	209,146	11,160	911,898	1,989,375
						工 賃	4,039,987
						手 当	2,751,219
						材料他	5,034,518
						収支差額	663,651

利用者への工賃支給は、月支給額計4,039,987円、手当（夏季・冬季・期末の3回）支給額計2,751,219円、合計6,791,206円を支給することができました。特に就労継続支援B型利用者（21名）の平均月額工賃は目標工賃13,200円を大きく上回り、18,030円となりました。

令和5年度支給工賃と比較すると3,944円増え、ランクアップすることができました。

(4) 成果と課題について

① ひまわり園においては、できる限り利用者の個別支援を見据えた対応が必要であり、具体的には、就労支援事業と生活介護事業における事業目的に合致した支援のあり方をどうしていくか、現行の施設機能では、十分な支援対応ができない課題があります。

② また、施設も経年劣化し、手狭となり、施設機能を十分に発揮できないことや、生活介護事業と就労継続支援事業のすみわけを視野に入れると、利用者人員の見直しや利用者の障がい区分による施設の統合または新設（増設・改修）はどうあるべきかを検討していきます。

3 ひまわり園日中一時支援事業

(1) 運営状況について

① 今年度は、利用実人員26名、1日あたりの利用者は9名でした。職員は7名（兼務4名含）を配置しての運営となりました。

奥州市、金ケ崎町及び一関市からの受託事業として利用者の身体及び精神状況に応じて、集団生活に適応できるようにその利用者にあった時間を過ごさせることができました。

また、新年度から市内の実施事業所の規模縮小に伴い、事業実施の居室の拡大、職員体制の構築が必要となりました。

- ② 施設利用終了後の午後3時半以降から午後6時30分までの開設となっていて、行政からの受託金（補助金）は、利用者一人当たり1回2,000円となっていますので、3名の専従職員（非常勤職員）を配置し、ひまわり園の職員が兼務する体制となっています。

職員については、利用者対応の検討や研修を積極的に取り組み、個人の資質向上に努め、職員間の連携を図りながら利用者支援を行いました。

(2) 利用者の支援について

- ① 利用者によっては、職員が1対1での支援が必要な場合もあり、個別の状況にあった活動を対応することが難しい状況となっています。

また、本事業においても利用者について、その心身の状況、その置かれている環境、その利用者個々の希望等の把握を行うため、相談支援事業所及び日中利用施設からの情報が肝要なため、情報提供を依頼しています。

- ② ご家族との連絡ノートを活用し、その日の利用者の状況をお知らせするとともに、日頃の利用者の状況を記録し、職員が常に経過を把握できるよう努めています。

(3) 成果と課題について

- ① 利用者の増加と一人当たりの利用回数の増加に伴い、事業を円滑に推進するために、常勤職員のシフト体制について確立する必要があります。あわせて、ひまわり園内の利用居室について拡大を行います。

- ② 余暇活動及び創作活動における取り組み（カラオケ、ゲーム等）を増やす必要があります。

#### 4 すてっぷ

(1) 全体の運営状況について

- ① 運営方針に対しての状況

就労支援事業の売上は伸びたものの、昨年度と同様に工賃支払い額が下がってしまいました。

- ② 財務的状況

年度途中に一般就労し退所された方の他、体調面でなかなか利用が出来なかった方、また、介護保険との併用を始めた方の影響により、定員20名に対しての利用率が前年より低くなったため、障がい福祉サービス等事業収入が少なくなりました。

就労支援事業の収入に関しては、前年度に工賃変動積立金を全て取り崩したため、収入に見合った工賃支払いしかできない旨を利用者の皆さんに伝え、利用者の皆さんと一丸となってボーナス支給が出来るくらいの売上を上げようと努力した結果、前年よりも売上を伸ばすことができました。

特に菓子製作科の「餅屋ぷくぷく」では、人員不足で大福の製造販売を休止せざるを得ない状況にありましたが、開店以来最高の売り上げを上げることができました。一方、下請けの取引が無くなってしまった企業もあり、売り上げが伸び悩んだ部門もありましたが、その分の時間を有効活用し、リサイクル科の銅線の分別作業を行うことにより、リカバリーすることができました。

そのような状況から売り上げを伸ばすことが出来、利用者の皆さんへ冬季と期末の手当てを支給しました。

- ③ 職員の状況

5月より常勤職員が体調不良のため病欠となっており年度途中で退職されました。その分としてパート1名を雇用しましたが、ご家族の介護により12月で退職されました。そのタイミングで12月より常勤1名を雇用し、利用者の皆さんへの支援体制が薄くなることを回避できています。

ただし、就労支援事業（特に菓子製造業）の人材育成には課題を残したままでした。

- ④ 施設整備の状況

売店再開の修繕は次年度へ繰り越しとなりました。

⑤ その他

就労支援事業での売り上げ増を目指す取り組みにより、利用者の方々のご家族、職員の結束力は強くなったと感じます。

(2) 利用者の支援について

① 支援方針に対しての状況

「職員は気持ちに余裕を持ちながら、利用者の皆さんやご家族に真摯に向き合い、その願いや思いを受け止めることから支えが始まる」という仕事の基本を胸に、支援を行うことができました。

② 具体的な利用者の支援状況

一般就労を希望される方へ、相談支援事業所やハローワークと密な連携を取りながら、一般就労へつなぐことができました。

また、コロナ禍で長らく見合わせてきた一泊旅行を再開することができました。その行程の中で、利用者の普段見えない課題や成長などを確認することができたのは大きな収穫でした。

(3) 授産事業について

① 取り組んだ授産事業

授産科目については前年同様でしたが、道の駅水沢や、東北自動車道前沢サービスエリアとの洋菓子の新規の取引が売り上げを伸ばす大きな要因となりました。また、一昨年からは始めた飲食店の臨時営業ですが、昨年度は地元水沢のイベントにも新規出店し、売上を伸ばすことが出しました。これには利用者の皆さんもスタッフとして動員し、仕事に対しての大きなモチベーションとなる効果がありました。

② 売り上げの状況

昨年度より 66 万円の増となり、久々の 1,000 万円越えとすることができました。特に菓子は 2 割増し、リサイクルは 4 割増しという状況でしたが、トータルでは 7 分増しにとどまり、科目間の増減のバラツキが大きくこの結果となりました。

③ 利用者の工賃について

平均工賃は 20,534 円でした。

(4) 成果と課題について

昨年度は、職員の負担軽減を一つの目標に運営をしてきました。しかし就労支援事業を行っている特性上、どうしても顧客優先に進めなければいけない部分もありました。しかしその中で、互いが協力し合い円滑に業務を行うことが出来、この互いを思いやる心と業務負担の軽減は、自分の中にも余裕を生み出すことができました。その結果、利用者の皆さんに十分向き合える支援を行うことにつながってきたと職員は実感しています。

しかし、負担軽減に関しては十分ではないため、その点は今後の大きな課題となります。

5 はっぴいウイング

(1) 全体の運営状況について

① 利用者と職員の状況

令和 6 年度は利用者 26 名（うち併用利用 1 名）でスタートし、途中 1 名の利用者が退所、2 名の併用利用者が増えて、27 名になりました。職員は退職者の補充をすることができず、当初は 17 名でしたが、常勤職員 1 名、非常勤職員 1 名を採用いたしました。

② 職員の働く環境

労務環境の改善とともに、ハラスメントのない風通しのよい働きやすい環境づくりを進めています。働きやすい環境が整えられることにより、人材が定着し、さらなる成長につながられています。

### ③ 財務状況

利用者で長期入院を繰り返される方や年度途中で退所された方がおり、また9月にはコロナウイルス感染が拡大し、罹患して休まれた方と利用を控える方もあったことで収入が大きく減少しました。次年度に向けて、収入増に結びつけることができるよう、土曜開所日の受け入れについて柔軟に取り組めるよう検討を進めていきます。

## (2) 利用者の支援について

### ① リハビリ活動

昨年度、胆江地域リハビリテーション広域センター様にご協力のもと、作成していただいたプログラムをリハビリ活動に取り入れ、目的に掲げている基本動作能力の回復や維持、および障害の悪化の予防に取り組みました。

### ② 音楽療法と外出支援

昨年3月から音楽療法として再開したリトミックを月1回のペースで外部から先生をお招きしておこないました。先生の意向により、一人ひとりと接する時間を充分にとれるように、月替わりで利用者は交代で参加している。

陸前高田市方面への日帰り親睦旅行では、ご家族とも交流することができ、貴重な時間を過ごすことができました。その他にも、年に数回、お花見や食事に出かけるなどの外出支援をおこない、施設外での活動にも取り組みました。

### ③ コロナウイルスの対応

新型コロナウイルスが5類に移行してからも、職員、利用者ともに感染症予防に努めてはいましたが、9月に集団感染が発生してしまいました。以後は施設内の換気、消毒を強化し、さらに、抗原検査に抵抗を示す利用者がいらっしゃるため、さらなる感染予防を呼びかけるとともに、ご家族も含めて風邪症状がある場合は受診していただくようお願いしました。はっぴいウイングの利用者のほとんどが重度の障がいをもっていますので、今後も引き続き感染予防に努めていきます。

## (3) 授産事業について

リサイクル回収、回収物の分別を中心におこないました。余暇活動の時間が充分にとれなくなってきたため、回収先を整理しました。収入にはあまり影響がないように整理を進めましたが、思いがけなく回収先が2件減ったことで、減収になりました。ただし、年度末には期末手当として利用者に幾分か還元することができました。

## 6 グループホームひまわり荘

### (1) 全体の運営状況について

#### ① 運営方針に対しての状況

地域のグループホームで規則正しい生活と体調管理、余暇を楽しみ充実した生活を送れるよう支援を行っています。

#### ② 財務的状況

南大鐘のひまわり荘5人定員のところ、1人空きがありましたが、他法人の利用者の入居が決まり令和7年3月より入居者しています。

10月より家賃の値上げを行ないました。その際、年金1級者は5,000円、2級者は3,000円とそれぞれ値上げを行ないました。

令和7年2月より「あい」「ゆう」の定員数を5人から6人にあげ、それぞれ入居者が決定しています。

#### ③ 職員の状況

数年前から世話人の離職が続いており、センター職員や施設の職員の応援を得ていましたが補充された部分もあります。しかし年度末に退職された職員があり、一部求人手続きを行っています。

#### ④ 施設設備の状況

「あい」「ゆう」開所から13年が経過し、所々修理するところが増えてきました。

「柿の木荘」では開所から10年を迎えますが、経年劣化もあり水回りの部分に修繕を要することが増えています。

#### (2) 利用者の支援について

##### ① 支援方針に対しての状況

入居されている利用者の高齢化に伴い、障害特性の他に体力低下、体調不良等にも対応していますが、徐々に支援度が高くなってきています。

親御さんも高齢になり、病気等で長期入院を余儀なくされ、帰省できないことで不安定になっている利用者があります。

##### ② 具体的な利用者の支援状況

通院同行、入院手続き、余暇活動支援、入浴支援、食事準備、清潔管理等

#### (3) 成果と課題について

① ハード面については法に基づいて整備しました。

② ソフト面は利用者それぞれの希望にこたえられるよう支援をしました。

③ 利用者が親元から離れたが、病気入院などで自宅が空き家になっており「家を片付けたい」「面会にいきたい」などの思いを強く訴える利用者の対応について、各事業所の担当職員と相談し、その都度対応を考えていきます。

④ グループホームでの生活が難しくなっている利用者もいるため、その状況に合わせ保護者、相談員、各事業所の担当職員と連携をとりながら今後の方向性を検討していきます。

### 7 相談支援事業所ひまわり

#### (1) 全体の運営状況について

##### ① 運営方針に対しての状況

「多くの皆さんの期待に応え、持続性あるひまわり会に」との方向性のもと、利用者の皆様・保護者様の期待に応えられるよう、奥州市基幹相談支援センター等と連携し通年相談支援を行いました。

##### ② 財務的状況

契約利用者の死亡、サービス終了、転居等による減や報酬単価の低さに変わりはありませんが、各配置加算を得ることにより事業活動収入は昨年度より増収、同支出の微増により収支差額は昨年度同様にマイナスではありますが、収入により少しプラスとなりました。当期末支払資金残高はマイナスとなりました。

##### ③ 職員の状況

職員2名体制で利用契約者82名のサービス等利用計画及び奥州市障がい者等相談支援事業の委託を受け業務に当たりました。丁寧な相談に心がけつつも一方では効率的な業務も求められています。今後の職員配置転換も踏まえ、新たな相談支援専門員の配置も課題と言えます。

##### ④ 施設設備の状況

パソコンソフト東経システムの「福祉見聞録」を事務所に導入したことで、入力業務や必要時の情報確認等がすぐにできるようになりました。

現事業所ははっぴいウイング内にありますが、相談に来訪いただいた一部の方に利用者の障がいの特徴について苦手な部分があり、静かに相談できる環境を求められていることに変わりはありません。

##### ⑤ その他

主に相談支援事業所が使用している公用車について、一部の相談者の方について事業所名入りの車での訪問を気にされるため、車の法人標記をマグネット式にして着脱を自由にする

ことで配慮しています。

(2) 利用者の支援について

① 支援方針に対しての状況

利用者が希望する生活を送ることができるよう、ご本人・ご家族の意思及び人格を尊重し、その立場に立ち相談支援に努めました。

② 具体的な利用者の支援状況

強化型利用支援 74 件、強化型継続支援 268 件、サービス提供時モニタリング加算 501 件

③ その他、状況に応じた自宅・事業所等の訪問、確認等。